



2010年冬、デンマークのファルスター島オウストロップに生息していた樹齡200年にもなるオークが切り倒されることになりました。そこでPPモブラーは、この貴重な樹木を買い取り、ハンス・J・ウェグナーがデザインしたPP502 Swivel Chairとして蘇らせることにしました。

200年の歴史を持つオークは文化的にも価値があり、短期間では醸し出せない尊大さと美しさがあります。今回の申し入れをPPモブラーは快諾し、樹木としての生命を終えたオークに、再び椅子としてのいのちを吹き込みます。

しかしPPモブラーのこの決断は決して容易なものではありませんでした。創業以来一番の大木だったため、製材の過程など、従来とは異なる過程が多々あったのです。職人たちは、樹木の歩んできた200年という歴史に敬意を表し、PPモブラーの中でも特に崇高なチェア、PP502 Swivel chairの製作に決定しました。この樹木で作られる限定50脚のSwivel Chairは、従来よりも更に美しく仕上がると彼らは確信していました。両サイドのアームと背もたれが同じ部位から切り出されるため、木の質が合うのです。200年の年月をかけて育ててきた大木だからこそ、それが可能なのです。

2010年冬樹齡200年のオークが道行く人々に危険を及ぼす可能性があるとして、やむなく切り倒されることが決まりました。

2011年春長さ7m、直径1.4mにもなる大木の購入をPPモブラーが決定しました。ドイツ北部の製材所で3/4/5インチの木材に切り分けられました。

2011年夏やがてPPモブラーに届いた木材は未だ自然の湿気をかなり含んでいました。その大きさと美しさに、長年木材に携わってきたPPモブラーの職人でさえ、非常に驚かされました。木材はPP502 Swivel Chairの大まかな形に切り出され、パレットに重ねられました。ゆっくりと、そして緻密に管理しながら乾燥させるため、屋外のシェルターに保管されました。

2012年秋約一年に及ぶ屋外での乾燥の後、更に乾燥させるため、空気を循環させている屋内に移動しました。そして2ヶ月後、高温の温室に移動し、乾燥を完了させました。

2012年冬木材が十分に乾燥し、ようやく行程がスタートしました。CNCによって結合部をカットし、アームと背もたれの美しい輪郭を職人の手によって生み出します。50脚のPP502 Swivel Chairがまもなく完成します。

2013年春最初の椅子が仕上げに入りました。丁寧に削りだされ、職人によってやすりをかけられます。繊細で有機的な輪郭と、カーブを描いたオークの計り知れない美しさが姿を表し始めました。革張りの座面がついた手作りのスチール材フレームに、アームと背もたれを結合します。こうして約2年の年月を経て、樹齡200年のオークで作られたハンス J.ウェグナーの502 Swivel Chairが完成しました。



PP502 Swivel Chair (1955年)
デザイン：ハンス・J・ウェグナー
材質：オーク、アッシュ、チェリー
仕上げ：ソープ、オイル、ラッカー
価格：1,526,000円～（オーク）
※税込み価格